

くにたち しらべ



NO. 20

発行日 2015 年 9 月 15 日

編集＝くにたち地域資料ボランティア

発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『 国立市のシンボル 』

まちにはいろいろなシンボルがありますが、その中でも国立市がシンボルだと決めたものがあります。たとえば木や鳥などです。

みなさんは市のホームページを見たことがありますか。「まちの紹介」というページを見ると市の木、花、色、そして鳥の紹介がされていますが、名前と写真だけです。

いったい誰が、いつ、どこで、どのようにして国立市を代表するシンボルに決めたのでしょうか。それを調べてみました。

1. 国立市の木

「いちよう」

告示 1973（昭和48）年1月1日
※告示というのは、国や都道府県、市町村などが、必要だと決めたことを広くみんなに知らせることをいいます。

目的 失われていく自然を回復し、生活に潤いとさわやかさを取り戻すためにこれらを制定し、みどり豊かな文教都市のシンボルとする



経過 前年の1972（昭和47）年の「市報くにたち」9月号に募集を載せ、11月号に募集の結果を掲載しました。この時は木だけでなく、同時に市の花と、市の色も募集しています。

応募総数は194通でした。それを受けて選考委員会を開き、「国立市の風土や歴史にゆかりのあるもの」「国立市の現在と将来の象徴となるもの」を選びました。

- 理由**
- ・太古からわが国に繁殖してきた木で、天を摩してすくすく育ち、落葉、青葉、黄葉の季節の美しさはいうまでもなく、落葉した冬木の姿もよく、四季の変化にとんでいる。
 - ・公害に強く、防風、防災に役立つ。
 - ・市の表玄関である国立駅前のメインストリートの両側に植えられ、市民とも親しみが深い。
 - ・いちよう並木の町という、詩的で情緒あるムードをつくっている立役者。

いちようはどんな木？

いちようは漢字で銀杏や公孫樹とも書きます。裸子植物門イチョウ綱イチョウ目イチョウ科イチョウ属となり、イチョウ綱の中では唯一残っているため、生きた化石としてレッドリストの絶滅危惧種にも指定されています。

繁殖力が強く公害にも強いので、全国各地の街路樹で見ることができます。4月から5月に花を咲かせ秋には丸い実を鈴生りにつけます。ただ、いちようには雌雄株があって、実をつける木と実のならない木がありますが、実の匂いを嫌がる人も多いため、近頃植えられるもののほとんどは実のつかない雄株を選んでいくようです。匂いは嫌がられても果肉の中の種は銀杏（ぎんなん）と呼ばれ、炒って食べたり茶碗蒸しの具にもなります。見た目は広葉樹のようなのに特殊な針葉樹だとか。不思議ですね。

また原田重久さんの『わが町国立』には、「シンボルの木にいちようが選ばれたのは、国立駅前通り（大学通り）の銀杏並木がヒントになっている」と書かれています。

大学通りにいちようを植えたのは？

1931（昭和6）年11月一橋大学発行の『一橋新聞』によると、卒業生の寄附により一橋会が学長指導のもと、二列を交互に植えさせたそうです。

このあと、1933（昭和8）年に一橋大学が国立移転三周年記念として、大学通り駅前から通りの両側に桜を百本植えることになり、前に植えたいちようを桜と二列になるように植えかえました。

翌年の『一橋新聞』によると「実現の暁は公孫樹と相まって春秋共に美観を呈す事になり学園都市美化の上にこの上ない計画で鉄道省あたりのポスター「お花見は国立で」の文句の出るのも間もないことであらう」とあります。

つまり花も紅葉もみごとな桜といちようを植えることで、学園都市の名が上がり国のポスターにまで載るほどになるだろうと言っているのです。今の大学通りのにぎわいを見ると、先人の知恵に頭が下がります。

大学だけでなく、1932（昭和7）年には連合商工会が皇太子（現在の天皇）誕生記念に桜といちようを植え、国立会（住民の会）も1933～1934（昭和

8～9)年にかけて皇太子の誕生記念に桜を植えるなど、多くの人たちが大学通り(当時は商大通りといった)の今を作り上げました。

さて、大学通りのいちようは何本あるのでしょうか。2006(平成18)年作成の健康ウォーキングマップでは119本と書かれています。今も同じなのでしょう。大学通りの端から端まで歩いて数えてみませんか。

2. 市の花

「うめ」

(いばら科・落葉・喬木)

告示、目的、経過は「国立市の木」と同じです。

- 理由**
- ・市章に(すでに)梅の花
 - ・汚れない花。清らかでさわやかで心が洗われるように美しい。
 - ・学問の神といわれる菅原道真公をまつた谷保天満宮とも歴史的にゆかりの深い花である。
 - ・梅の木は、国立市をふくめて、多摩地方の地味に適しており、観賞用としても桜とともに日本の代表的な花である。



ちょっと寄り道(市章と市歌はいつから?)

1967(昭和42)年1月1日、北多摩郡国立町は東京都で15番目の市となりました。この年の12月に中央高速道路の調布～八王子間が開通し、国立インターチェンジができたのです。

市になった記念にと、2月に国立市の市章と市歌の募集をしたところ、市章のデザインは706編、市歌は106編の応募がありましたがどれも入選にはならず、9月の定例市議会でこれまで町章として使われてきたものをそのまま市章とすることに決めました。

これは市内の彫刻家である関保寿さんの考案したものです。「二重梅」といって谷保天満宮の梅の花を二重に型どり、国立文教都市の国がまえ、立の字、文の字を図案化し、それに世界五大陸の意味をも込めたといえます。



市歌も、町の時から親しまれてきた教育委員会選定の「くにたちの歌」(長友貞雄作詞、水野隆司作曲)を、そのまま使うことになりました。

3. 国立市の色



「みどり」(緑)

告示、目的、経過は「国立市の木」と同じです。

理由 ・みどり多い国立市の象徴にふさわしい色。

・みどりは平和の色。健康で明るくて、暖かくて、ゆたかな感じにあふれている。

・町からこれ以上にみどりを減らさぬように。

・もっともっとみどりのゆたかな町という願いをこめて。



みどりは市民の願い

1972（昭和47）年は市の基本構想素案に「くにたちインター付近に流通事業団地誘致」が入った年です。それに対し市民の反対運動が巻き起こりました。計画は南部地域の活性化を目的に、東京都の計画である流通センターを誘致しようというものでしたが、それを前提とする用途地域の準工業化反対を打ち出した環境保護の市民運動に、谷保の建設予定地住民である農家も反対運動に加わる形となりました。おおもめにもめて計画は白紙に戻されたのです。

同じ年の2月に行われた「6万人市民の声をきく月間」の市民意識調査結果には、「あなたの住んでいるところの環境が破壊されようとした場合、その反対運動に参加しますか」という問いに、回答者の75%が参加したいと答えるなど、市民の環境意識の強さが全面に出ました。集計結果の発表と同じ9月に募集した市のシンボルカラーが「みどり」となったところに、市民の環境意識の重みが感じとれます。

以上のように、国立市の木と、花と、色は決められました。応募総数194通の中からそれぞれ5名ずつを抽選し、その方々には2千円を差し上げたとき当時の市報に書かれています。

4. 市の鳥



「シジュウカラ」

(シジュウカラ科・全国的に留鳥)



告示 1997（平成9）年11月3日
市制30周年記念式典当日

目的 私たちの生活にうるおいと、さわやかさ
を取り戻すための自然保護のシンボルとする

経過 市制施行30周年記念事業のひとつとして取り組みました。6月の「市報くにたち」に48種類の鳥の写真と名前を載せて、市民の意見を募集しました。写真と種類の選定には、以前に国立市の動物ガイドブック「くにたちの小さな仲間たち」を作った国立市動物調査会の協力を得ています。市民からの応募総数191通。上位はカルガモ、シジュウカラ、ウグイス、オナガ、キジバトの順でした。やはりこの募集をした当時に市民がよく目にし、耳で聞く機会の多い鳥が選ばれています。その中から選考委員会でシジュウカラに決めました。9月の「市報くにたち」でこの結果を載せ、投票者の中から抽選で5名にテレホンカードを贈ると公表しました。このテレホンカードというのは、30周年記念事業にあわせて作られたもので、シジュウカラの図柄の2枚一組（限定1,000組）です。

理由

- ・四季を通して市内全域で見られる。さえずりが美しく、ネクタイを締めているような姿も愛らしく、市民に親しまれている。
- ・木の葉や枝、幹などにいる害虫をよく食べる。
- ・市内で繁殖し、親子でなかよく行動する。また巣箱もよく使い、人の身近なところでも生活するので親しむ機会を持ちやすい。

なお9月に開かれた国立市議会総務文教委員会の中で、市当局は選んだ理由の補足として、国松俊英著『鳥のことわざ うそ ほんと』を引いています。それによると「シジュウカラを捕ると米びつが始終空になる」とあるそうです。

「この鳥は人に害を与えず害虫をとる。これを捕ってしまうと、害虫などがまんえんして作物が取れなくなるので「始終空」と「シジュウカラ」をかけたとか。千葉県、長野県、鹿児島県、佐賀県などいろいろな地方でいわれると、説明をしています。

たしかにツツピーツツピーと鳴きながら庭の枝や木を突いているかわいい姿を見ることが多く、みんなに愛されている鳥ですね。

他市のシンボルは？

国立市と隣り合っている市にはどんなシンボルが選ばれているのでしょうか。調べてみたところ「市の色」を決めているのは国立だけのようです。

市の名前	市の木	市の花	市の鳥
国分寺市	けやき	さつき	かわせみ
立川市	ケヤキ	コブシ	
府中市	ケヤキ	ウメ	ヒバリ
日野市	カシ	キク	カワセミ

その他、他市のシンボルを探してみると、それぞれの特徴が見えてきます。例えば北海道の苫小牧市のシンボルを見てみましょう。

市の木はナナカマド、市の草の花はハナショウブ、市の木の花はハスカップ、市の鳥はハクチョウと、ここまではさすが北海道と思いますね。ところがまだシンボルがあるのです。それは市の貝で、ホッキ貝となっています。これらのシンボルを並べると、まちの風景が目に見えそうです。

探してみましよう

くにたちのシンボルの成り立ちを調べてみると、当時の環境や人々の思いが込められています。それぞれ選ぶ理由があり、みんなで一生懸命に選んだものだということがよくわかりますね。

大学通りの絵タイルや、矢川駅から多摩川に向かう石田街道などにも、シンボルたちが描かれています。市の使っている封筒や制服などには確かに緑が使われていますし、梅は市のマークですから下水道のふたなどいろんなところで見かけます。



ガードレールにシンボルが！



100mごとにタイルがあります

その他、大学通りの距離を示す案内マークにも、いちごや梅などが描かれ、健康ウォーキングマップのタイトルにもシジュウカラがとまっています。どこに何が使われているのか探してみてください。

またあなたが選ぶならどんな花や木が良いと思うでしょうか。シンボルとして選びたいものはほかにもありますか。それを考えるのもおもしろいですね。



マンホールは「うめ」以外に「駅舎とさくら」も発見

【参考文献】は図書館の資料の請求記号です

- ① 国立市公式ホームページ
- ② 市報くにたち 1972（昭和47）年9月号 11月号 縮刷版
1997（平成9）年 6月5日号 9月20日号
- ③ 一橋新聞 1931年11月14日付
1933年 6月12日付
1934年 3月12日付
- ④ わが町国立 原田重久著（1975）10/B1
- ⑤ 国立市史下巻（1990）10/B1
- ⑥ 1997（平成9）年第三回国立市議会総務文教委員会記録 10/F4